

地鶏の生産流通に関する試験(2)

誌名	福島県養鶏試験場研究報告 = Bulletin of the Fukushima Prefectural Poultry Experiment Station
ISSN	02893258
著者	小山, 有子 矢口, 弘子 岡崎, 充成 須田, 敏
巻/号	32号
掲載ページ	p. 33-35
発行年月	2005年2月

地鶏の生産流通に関する試験

(2)会津地鶏・ふくしま赤しゃもの効率的生産マニュアルの作成に関する試験

②餌付け時間の違いによる経済性の比較

小山有子・矢口弘子・岡崎充成・須田 敏

Experiments of production and distribution of JIDORI meat

(2) Experiments of efficient production manual of Aizu-jidori and Fukushima-akashamo

② Comparison of economical different of periods from hatched to first feeding

Yuko Koyama, Hiroko Yaguchi, Mitsushige Okazaki, Satoshi Suda

要 約

ブロイラーではふ化後餌付け時間が早いほど、育成率や増体がよいことが知られており、会津地鶏で餌付け時間を早めることにより、生産コストを低減できないか検討した。

ふ化翌日に餌付けする対照区とそれより20時間早く餌付けした試験区を比較した結果、育成率、雌の増体に大きな差は見られなかった。雄においては17週齢で対照区3.10kg、試験区は3.31kgであり、試験区が有意に大きかった。生体1kgの生産費では、雄雌平均で430円となり、試験区が10円低かった。

はじめに

ブロイラーではふ化後餌付けが早いほど、育成率や増体性がよいことが知られている。そこで、一般的に輸送時間を短くし、すぐに飲水させる管理が経済的損耗は少ないとされている。通常、会津地鶏はふ化翌日に餌付けされている。会津地鶏をふ化日に餌付けした場合、ブロイラー同様経済的損耗が少なくなり、地鶏の低コスト生産に結びつけることができるのではないかと考え調査を実施した。

材料及び方法

- 1 試験鶏と試験区分
平成15年5月7日ふ化の会津地鶏を雌雄各360羽、計720羽を用いた。試験区分は表1に示した。
- 2 試験期間
平成15年5月7日から調査を開始し、17週齢まで調査期間とした。
- 3 給与飼料
雌雄ともに、餌付け～4週齢はブロイラー前期用飼料（CP22%－ME3, 100kcal/kg）、5週齢～17週齢はブロイラー休薬用飼料（CP17%－ME2, 950kcal/kg）の市販配合飼料を不断給与した。水は自由飲水

表1 試験区分

餌付け時間		
試験区	ふ化日（平成15年5月7日 13:00）	雌雄別飼い、飼育密度
対照区	ふ化日翌日（5月8日 9:00）	飼養管理方法は同一条件とした

表2 育成率及び飼料摂取量, 飼料要求率, 生産費

	育成率 (%)				飼料摂取量(kg)		飼料要求率		生産費 (円)
	0~5週齢		0~17週齢		0~17週齢		17週齢		生体1kgあたり ♂♀平均
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	
試験区	98.3	100	97.8	98.9	11.61	8.23	3.51	3.75	389
対照区	98.9	98.3	97.8	98.3	10.97	8.40	3.55	3.80	440

とした。

4 飼養管理

餌付け~2週齢はガスブルーダーを用いて給温し, 5週齢で平飼い開放鶏舎に移動した。

デビークは9日齢に実施し, ワクチネーションは0日齢にマレック病, 9日齢に鶏痘を接種, 12, 28, 58日齢にニューカッスル・鶏伝染性気管支炎混合, 20日齢に伝染性ファブリキウス嚢病ワクチンを飲水投与した。

5 調査項目

- (1) 育成率
- (2) 体重: 8週齢までは1週毎, 以降2週毎に50%の羽数を無作為抽出し測定。
- (3) 飼料摂取量及び飼料要求率: 8週齢までは1週毎, 以降2週毎に飼料給与量から残量を差し引いて求めた飼料摂取量より, 飼料要求率を算出した。
- (4) 経済性の試算: 当場の慣行法によって実施した。

表3 体重の推移(g)

	試験区		対照区	
	♂	♀	♂	♀
ふ化時	44	41	44	41
餌付け時	44	41	41	39
1週齢	88	90	84	80
2	187	184	179	169
3	330	313	324	293
4	509	449	483	420
5	638	611	640	570
6	813	626	726	612
8	1,315	1,024	1,259	1,015
10	1,866	1,368	1,802	1,363
14	2,799	1,890	2,650	1,893
17	3,306*	2,221	3,101*	2,218

*有意差あり(P<0.05)

3.10kg, 雌2.22kgであった(表3, 図1・2)。雄は試験区が対照区よりも有意に大きかった。

3 飼料摂取量及び飼料要求率

17週齢の飼料要求率は, 試験区雄3.51, 雌3.75, 対照区は雄3.55, 雌3.80であった(表2)。

4 経済性の試算

生体1kgあたりの生産費は雄雌平均では, 試験区は430円, 対照区は440円であった(表2)。雄のみでは試験区389円, 対照区403円で14円の差があったが, 雌は試験区490円, 対照区492円で2円の差であった。

結 果

1 育成率

出荷適期の17週齢では, 試験区雄97.8%, 雌98.9%であり, 対照区雄97.8%, 雌98.3%であった。

両区とも高い育成率であった(表2)。

2 体 重

試験区と対照区を比較すると, 雄は全期間中試験区が大きい値で推移した。雌は6週齢までは試験区が大きかったが, 以降ほぼ同程度の大きさを推移した。17週齢の体重は試験区雄3.31kg, 雌2.22kg, 対照区雄

考 察

試験区と対照区においては, 育成率, 飼料要求率には大きな差がなく, 体重は雄においては試験区が有意に大きかった。これらのことから, 従来餌付けはふ化日翌日とされていたが, 会津地鶏においてもふ化後早い餌付け

がふ化翌日に比べて成績がよいことがわかった。

ふ化時体重は試験区、対照区とも雄44 g、雌は41 g、17週齢時は試験区雄3,306 g、雌2,221 g、対照区雄3,101 g、雌2,218 gであり、試験区雄は75倍、雌は54倍、対照区70倍、54倍に体重が増加している。しかし、餌付け時体重は、試験区は雄44 g、雌41 gであり、対照区は41 g、雌39 gである。対照区において餌付け時体重と17週齢体重を比較すると、雄76倍、57倍になっている。このことから餌付け前の体重の損耗を小さくすることが重要と考えられる。雄雌ともに餌付け時の体重の大きい試験区が対照区より雄は試験終了まで、

雌は6週齢まで大きい体重で推移する。この原因はよくわからなかったが、雄と雌では雄の成長速度が速いので、餌付け時の体重の差が縮まりにくかったと推察された。ブロイラーの餌付け時間の試験においても同様の傾向が報告されている。¹⁾

早期餌付けは給与飼料等のその他の低コスト化技術との組合せることで、さらに生産費の低減が可能と考えられる。

参 考 文 献

- 1) 天野亘・小山正雄・斎藤克・鈴木章, ブロイラーの安定生産技術の確立, 福島県養鶏試験場研究報告, 22号, 1991

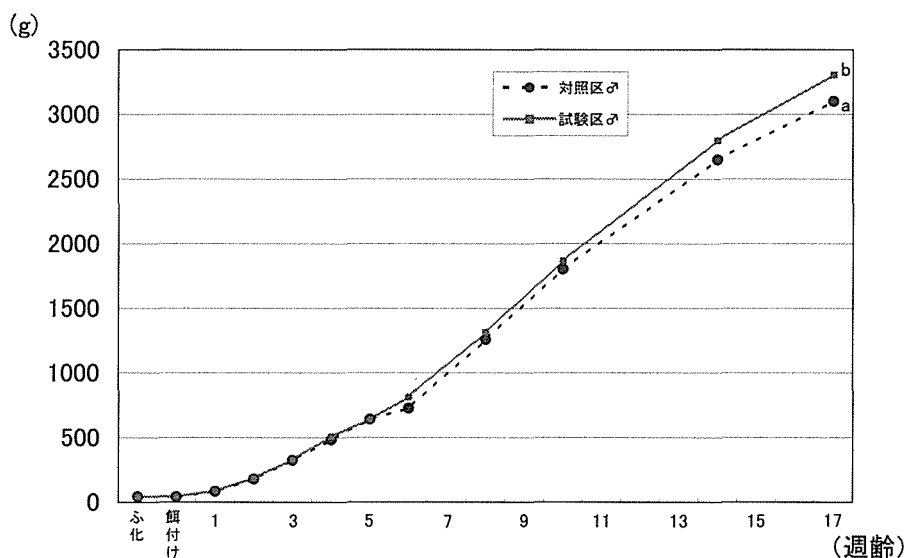


図1 体重の推移♂

異符号間で有意差あり (p<0.05)

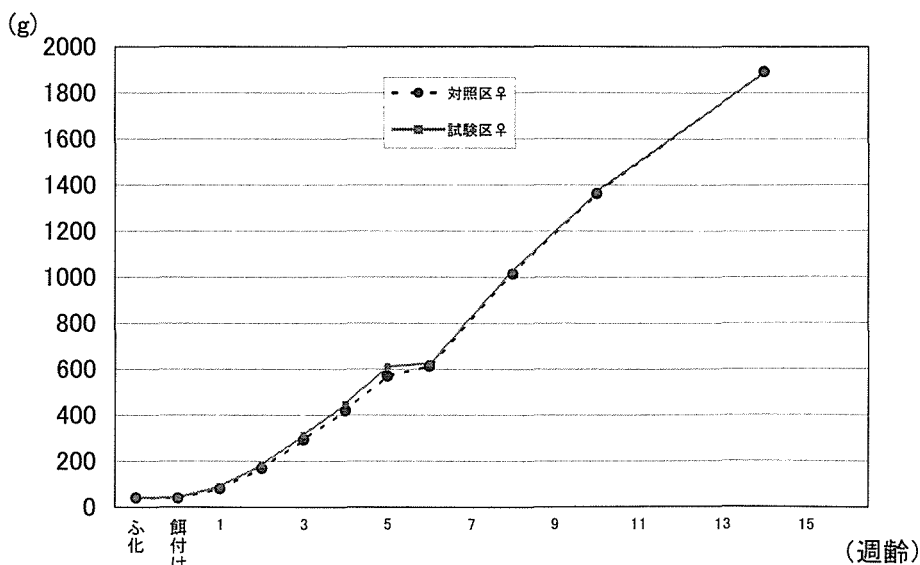


図2 体重の推移♀